

目的 紳士用の靴下は、四季を通じ幅広い年齢層の男性に着用されており、日常生活に欠かせない被服である。しかし女性のストッキングとは異なり、着用した時、ズボンの下に大半は隠されてしまうため、サイズの不適合、はき心地の悪さもみすごされているのではないかと考えられる。本研究では、はき心地の良い紳士用靴下を設計することを目的に現状を調査し、足部計測、靴下の着用テストを行ない、その問題点を見い出そうとした。若干の知見を得たので報告する。

方法 1) 成人男子300名を対象に紳士用靴下についてアンケート調査を実施した。2) 靴下設計に関して必要と思われる足部計測部位を設定し、成人男子100名について身体計測を行なった。3) 1)2)で得られた資料をもとに、素材が同一の靴下5種を選び、足部にかかる衣服圧や口ゴム部の伸度について測定した。4) 3)で行なった実験結果から3種の靴下について、3タイプの男性6名について官能検査による着用テストを行なった。

結果 1)アンケート調査では、着用感について口ゴム部の箇所で「きつい」「ゆるくてすれてくる」の理由により37%の人がはき心地の悪さを感じていた。2)足部計測値について、靴下の口ゴム部が当る下腿最高部の平均値は25.4cmであり、下腿最大囲との相関は0.77であった。足長と各周径項目の相関係数はいずれも低かった。3)はき心地について、被験者の下腿周径によって口ゴム部のすれに違いが認められた。4)JISによる靴下のサイズ表示は足長だけであり、下腿部周径のサイズ表示がないところに問題があると思われる。